

令和5年 7月31日

大河原町議会議長 岡崎 隆 殿

文教厚生常任委員会

委員長 佐藤 巖

所 管 事 務 調 査 報 告 書

本委員会は、調査中の案件について下記のとおり調査を終了したので、大河原町議会会議規則第76条の規定により報告いたします。

記

1. 開催の日時 令和 5年 7月28日(金)
10時00分から11時30分
2. 開催の場所 大河原町世代交流いきいき交流プラザ
3. 出欠委員の氏名 佐藤 巖 大沼 常次 秋山 昇 山崎 剛
出席委員 丸山 勝利 中村 淳 佐藤 暁史
欠席委員 なし
4. 説明のため出席 子ども家庭課長 齋藤 直美
した者の職氏名 同 課長補佐 吉野 博美
いきいきプラザ館長 前元 純子
5. 議会事務局の出 議会事務局長 齋 修
席職員の職氏名 同 局長補佐 伊藤 みどり
同 主事 佐藤 邦彦
6. 所管事務の調査事項
(1) 町いきいきプラザの現況について(視察)
(2) いきいきプラザの事業の成果と課題について
7. 調査の内容
(1) 視察及び所員からの説明
① 児童クラブの利用者が増えており、登録者は120名である。視察日は92名の児童が活動に参加していた。

- ② 町の児童数は減少しているが、親の共働き家庭が多くなっていることから児童クラブの利用者が年々多くなっている。
- ③ 子育て支援センター(みらいのひろば)の利用は町外の方でも利用できる。
- ④ 本年5月から事業が開始された「一時預かり事業(ことりのへや)」は5月11件、6月は14件の利用者があった。

【質疑】

- Q 児童から購入希望の図書などはあるか。児童の図書利用の促進のために取り組んでいることはあるか。
- A 図書の選定にあたっては、児童からの要望とスタッフから子供たちに勧めたい図書をバランスよく選定して購入している。また、図書利用の促進については本を読んだらポイントを与えるなどの方法も採用しており、「本を読もうね」という声掛けは日常している。
- Q 夏休みの期間の利用は1年生から4年生までとなっているが、希望者全員が利用できているのか。町外居住者の児童クラブ利用はできるのか。
- A 利用の仕方は様々であり希望者は多少の調整はあるものの待機することなく受け入れられている。児童クラブの利用は町内居住者限定になっている。
- Q 蔵王町では小学校学区ごとに児童館があるが、本町では大小には小学校の施設内に児童センターが併設されており、南小学校区には上谷児童館がある。しかし、金ヶ瀬地区にはそういったものがない。地域格差があるように感じるが、今後の見通しは。
- A 指摘されたような実態にはある。今後、どのようにしていったらいいのかを検討することも考えられる。
- Q 受け入れる子どもたちが増えている中で職員の人数は足りているのか。また、何か要望等はないか。
- A 十分とはいえないまでもなんとかやっているが、保育士の人集めは苦勞している。また、配慮が必要とされる子どもが増えており、そういった子どもへの対応が求められている。
- Q 施設の職員の内訳を教えてほしい。また、男性職員がいないようであるが問題はないか。支援センター業務の中での主な相談内容は何か。5月から始まった「一時預かり」はどのようになっているか。施設内での子どもの事故はどのようになっているか。また、保護者からの要望等があれば教えてほしい。
- A 正職員4名、保育士3名、保育補助1名、会計年度保育士4名、同補助4名で、この中に男性職員はいない。子育て支援センターでの主な相談内容は子育てのことが多い。一時預かり事業は5月11件、6月は14件の利用があった。子育て支援事業の中での受け手の「講習」については、3日間の所内研修を行っている。
日常の活動においては、小さな事故はあるが大きな事故は今のところない。延長保育については、ファミリーサポート事業を併用しながら行っている。

8 まとめ〈視察の感想等〉

- (1) 保安上、男性職員は必要でないか。
- (2) この施設ができた当初は「世代交流」を目的としていたはずだったが、時代の要請とともに施設の使われ方が変質している。
- (3) 児童館(センター)の偏りは問題である。金ヶ瀬地区への類似の施設が求められている。
- (4) 幼少連携が必要である。町に在住していない方も使える施設であってほしい。施設の名称は改めてもいいように感じる。